

People are people

【実践者】

氏名	内山俊太	学校名	茨城県高萩市立松岡中学校
担当教科等	英語	対象学年	第3学年
実践年月日もしくは期間(時数)	R6年10月～12月 3時間		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域

道徳 C 主として集団や社会との関わりに関すること
・公正・公平・社会正義、国際理解・国際貢献

2. 単元名と単元目標

- ① 単元名
People are people
- ② 単元目標
日本とウガンダの共通点や違いについて気づき、世界の中の日本人としての自覚をもち、差別や偏見のない社会の実現についての考えを深めることができる。
- ③ 関連する学習指導要領上の目標
(「第3章 特別の教科 道徳」の「第1 目標」)
第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

3. 単元の評価基準

- ① 公正、公平、社会正義
正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。
- ② 国際理解、国際貢献
世界の中の日本人としての自覚を持ち、他国を尊重し、国際的な視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。

4. 単元設定の理由・単元の意義

- ① 単元設定の理由
狭い地域や人間関係の中で生活していると、自分たちのものごとの見方も狭くなり、自分たちの「外」への視点が少なくなってくると感じる。そのため生徒には、ウガンダという国を通して、国際的な視野をもち、より広い考え方を身に付けてほしいと考える。

② 単元の意義

私たちは、住んでいるところが違う、人種が違う、話す言葉が違うなどさまざまな理由で、違う、とされているが、一人一人がそれぞれの間人である、ということは同じである。同じ人間同士、課題があったら協力して乗り越えようとする気持ちを育てるために、この単元の意義があると考え

③ 児童/生徒観

本学級の生徒は、何事にも積極的に取り組むことができる生徒が多く、授業中の問いかけに対しても、自分なりに答えようとする生徒が多い。男女間の仲も比較的良く話し合いが素直にできる生徒が多い。

学校の場所が茨城県北部の地方都市ということもあり、海外の情報に触れる機会が非常に少ない。地元で育ち、地元で働く人も多いため、自分の町より外への意識があまり身についていないように感じる。

④ 指導観

本校の生徒は海外に行った経験がほとんどなく、普段から海外の情報に興味をもって触れる機会も少ない。この授業を通して海外についての情報を提供し世界に対する視野を広げていきたい。そこで、海外に関する写真やニュースなどの紹介をしながら、より多くの情報を生徒に与えることで、自分たちにできることについて考えさせたい。

ウガンダは、生徒にとってあまりなじみのない国なので、まずは基本的な情報を知ることから始めていく。その後、違いを知って、ウガンダについて興味や関心をもてるように仕向けていきたい。

5. プログラム計画

回	テーマ ねらい	方法・内容	使用教材等
1	○ウガンダについて知ろう ねらい:ウガンダについて興味を持ち、世界に対しての視野を広げる。	・ウガンダの写真を校内に掲示することで、興味をもたせる。 ・ウガンダについての事前アンケートの結果を紹介していく。 ・ルガンダ語の簡単なあいさつを紹介・実践し、アイスブレイクとして使用する。 ・ウガンダの基本情報をクイズ形式で紹介していく。 ・クイズ内で出た情報を補足しながら説明していく。 ・Q&A を使ってウガンダの学生について知る。 ・振り返りをして、気づきを促す。	写真 クイズ Q&A の結果 振り返りシート
2 本時	○自分たちとの違いについて気づき、考えを深めよう ねらい:日本とウガンダの違いについて気づき、普段の生活で自分に何ができるかを考える。	・フオトランゲージを用いて、グループごとに、自分たちとの共通点や違うことについて考え、ふせんに記入していく。 ・グループごとに模造紙にまとめ、お互い意見交換をする。 ・ウガンダや自分たちの課題について、自分ができることについて考えを深める。	・写真 ・ふせん ・模造紙
3	○「あってはならない違い」をなくすために大切な考え方について考	・ウガンダの現状について知り、あってはならない違いについて、どん	・前時の模造紙 ・ワークシート

	えよう ねらい：日本とウガンダの違いに気づき、あってよい違い、あってはいけない違いについて話し合い、人権についてより理解を深めることができる。	なものが当てはまるか考える。 ・その違いをなくすためにどうすればよいかを考える。 ・この現状に対して、自分たちには何ができるかを考えていく。 ・活動を振り返り今後の自分の生活に生かす。
--	--	---

6. 本時の展開

時間	第2時		
本時のねらい	日本とウガンダの共通点や違いに気づき、普段の生活で自分に何ができるかを考え実行する。		
過程(時間)	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入(5)	<ul style="list-style-type: none"> ●ウォームアップ ・ルガンダ語でのあいさつをしてアイスブレイクをしていく。 ●前時の復習 ・前回までのウガンダについての情報の確認をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がいつでも確認できるように、あいさつの表現をスライドで示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド
展開(30)	<ul style="list-style-type: none"> ●グループワーク1 写真を通して、日本とウガンダの共通点と違いについて考え、ふせんに記入していく。その後、対比表に分類していく。 ●グループワーク2 ・写真やこれまでの話の中で、日本とウガンダのそれぞれの課題に関して、ブレインストーミングをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真はいつでも手元で見られるように、Teamsを活用する。 ・アイデアを考えるときには、質より量が大切ということを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・ふせん ・模造紙 ・タブレット PC ・ワークシート
まとめ(15)	<ul style="list-style-type: none"> ●まとめ それぞれの課題に対する自分の行動プランを考え、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えた行動プランを実行できるよう支援する。 	

7. 評価規準に基づく本時の評価方法

ワークシートや事後アンケート、授業中の発言から達成度を評価する。

8. 学校外との連携

今年度中に、同地区の小学校にて、出前授業を計画中。ウガンダについて、様々な観点から紹介していき、児童たちの世界観を広げられるように支援していきたい。また、ウガンダという国を通して、自分の国について深く考えたり、世界に対して目を向けたりできるように仕向けていきたい。

9. 生徒の学びの軌跡

・授業前の事前アンケートの結果(3学年58名実施)
「ウガンダに対するイメージは?(自由記述)」主な回答
暑そう 26名 砂漠・乾燥 14名 発展途上 10名 治安悪い 8名 貧困 6名
フレンドリーな人が多い 6名 食べ物がおいしくない・種類が少ない 4名
○ウガンダについて知ろう

1時間目を終えての感想

- ・「みんな笑顔で楽しそうだった。ごはんもおいしそうだった。」
- ・「ウガンダは自然がいっぱいで、気候も良く過ごしやすい。」
- ・「「アフリカの真珠」と呼ばれるぐらい水源や食物が豊富で過ごしやすい環境ということが分かった。」
- ・「現地語の発音がかっこいい、実際に聞いてみたい。」
- ・「意外にも都市部は発展していて、緑が多いことが分かった。」
- ・「国全体がマイペースだと感じた。」
- ・「イメージと全然違う。特に食事がおいしそうで驚いた。」

ウガンダに対して、多くの生徒が肯定的なイメージをもって回答した。事前アンケートで出た「暑い」というイメージは多くの生徒が持っていたため、実際の気温や服装を紹介したところ、とても驚いていた。また、農業に関して、コメが人気で多く生産していることは、ウガンダの気候と関係していることも関連付けて理解したと思われる。

○自分たちとの違いについて気づき、考えを深めよう

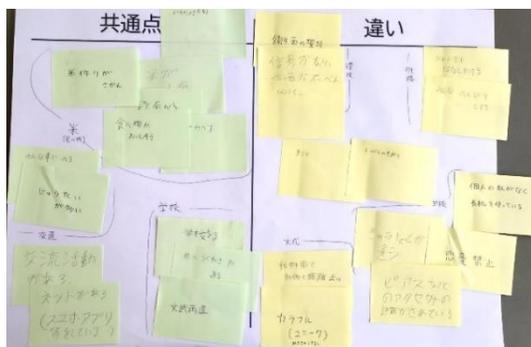
2時間目の授業では、共通点や違いについて考え、自分たちができることを考えた。共通点では、「食べものが豊富」「学校がある、机に落書きがある」「渋滞がある」「ネットが発達している」「車移動がある」「制服がある」など多くの点が挙げられた。多くの生徒がまた違いについて「机が一人一つではない」「トイレが汚い」「信号がなく大変そう」「衛生面」「気候や文化の違い」などが挙げられた。

また、それぞれの国の課題について以下のように挙げられた。

- ・日本:「少子高齢化」「過疎・過密」「自殺率」「領土問題」「校則厳しい」「円安による物価上昇」「税金が高い」など
- ・ウガンダ:「水道やトイレの未発達」「ポランポランすぎ」「学校行っている人が少ない」「ノーヘル」「道路が舗装されていない」など

自分たちには何ができるだろう。という問いに対しては以下のように挙げられた。

- ・日本の課題に対して「町おこしをして過疎を防ぐ」「政治に興味を持つ」「生きているという幸せをもう一度感じる」「ポイ捨てをしない」
- ・ウガンダの課題に対して「学校のいすや机を寄付する」「インターネットを活用して募金活動」「ウガンダの生活をより多くの人に知ってもらう」「クラウドファンディングの活用」



<ブレインストーミング用紙>



<共通点と違いについて>

○「あってはならない違い」をなくすために大切な考え方について考えよう

「あってはならない違いとは？」に対する生徒の答え

- ・傷つく人が出るかどうか
- ・命にかかわる問題
- ・人同士の違い
- ・個人ではどうにもできないこと

「これらの違いをなくすためにはどうすればよいか」に対する答え

(教科書が一人一冊支給されていない状況について)

「国自体お金がない、または家庭のお金がないのなら、募金は有効」「他国で教科書を作って送る」「高校生ならば、教科書の電子版をスマホに入れさせる」

(ノーヘルでバイクを乗ることについて)

「取り締まりを強化する」「まずは危険ということを動画などでアピールする」

10. 自己評価

① 成果が出た点

事後アンケートの結果から、「知らない地域のことだけど意外と共通点が多かったり、同じような学校生活を送っていたりして少し親近感がわいた。」「「アフリカの真珠」といわれるような豊かな自然や食べ物がたくさんある。」「日本とウガンダは場所や人は全く違うけどそれぞれの国でいい所や課題がたくさんあるということが分かった」などウガンダについて肯定的にとらえる生徒が多くみられた。ウガンダという国を身近に感じてもらえたと感じる。今まで知らなかった国について知ること、外側への視点が増えたと感じる。生徒にとって「Polan, Polan(ゆっくりゆっくり)」という言葉が特に印象に残ったようで、授業後も使っている生徒もみられる。

また、「日本とウガンダのそれぞれの良いところと課題について理解し、今私たちができることを考えることができました！！」という感想もあり、さまざまな課題を自分事としてとらえる生徒がいたのが大きな成果だと感じる。

第2時間目の授業の中で、ブレインストーミングを行ったが、自分の意見を言いながら紙に書きだす、ということができている生徒が多く、たくさんの意見交流ができた。今後実践するときにも、まずは質より量を意識させていきたい。

第3時間目の授業の中で、「あってよい違いとあってはならない違い」の学習時に、ウガンダという国を通して、日本の課題についても考えることができ、より良い生活のために必要のことを考える姿が多くみられた。日本の課題に関してはすんなり考えることができた生徒が多い。問題が身近にあるほど考えやすいため、世界の課題をいかに生徒にとって身近にしていけるかが重要だと感じた。

② 苦勞した点

研修で学んだ知識や考えをどう授業に反映していくかが、難しかった。伝えたいことや大事なことが多く、どこを切り取って伝えるかを選定するのが難しかった。また、どうやって伝えていくかが特に難しかった。限られた時間の中で、必要な情報を伝え、生徒が興味をもてるようなやり方を模索することに時間を要した。

③ 改善点

第2時間目の授業の中で、「それぞれの国の課題に対して自分たちにできることはなんだろう」という問いに対して、発展途上国に対しての募金という意見が多く上がった。しかし、それをどこでどうやって実現するか、そのお金をどう使ってほしいのかが具体的に出てこなかったことが課題として挙げられる。大きすぎる課題に対しては、生徒たちにとって身近に思わなかったことが原因だと思う。そのため、もっと課題を身近にとらえるための工夫が必要だった。生徒たちにどうやって達成するかを考えさせていければさらに考えが深まったと感じる。

ウガンダや世界の現状を知って終わりではなく、これを知って今後自分の考えを変えていくなど、実際に行動できる生徒育成のための手立てをさらに工夫していきたい。

④ 自由記述

伝えたいことをコンパクトにまとめて、伝えていければさらに生徒に伝わりやすかったと感じる。日々の授業や生活の中で、ウガンダの生活や文化について少しずつ話していくことで、生徒の興味を持続させられると思うので、続けて取り組んでいく。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

学校内の取り組みとして、ウガンダの掲示物コーナーを設けた。現地で購入した土産品や写真を掲示することで、生徒に海外に対する興味をもたせた。今後他学年でも授業実践予定。今回の取り組みや報告書を学校全体で共有していく。

学校外の取り組みとして、同地区の小中学校で、出前授業の実施を計画している。世界についての情報を小学生のうちから知ること、より身近に感じてほしいと考える。その時には、小学生の興味を引けるように、写真や動画の使い方をさらに工夫して、ウガンダの情報や自分達との違いや共通点について伝えていきたい。

12. 自由記述

本研修を通して、学んだことがとても多く、生徒たちにいかに還元していくかを厳選するのが大変な作業だった。しかしながら、クイズやブレインストーミング、フォトランゲージなどの活動を交えながら行うことで生徒たちは楽しんで、ウガンダについて学び、ウガンダを通してたくさんのことを考えることができたと感じる。生徒の感想からも、ウガンダや世界のことを肯定的にとらえ、外側への興味が広がったと感じる。

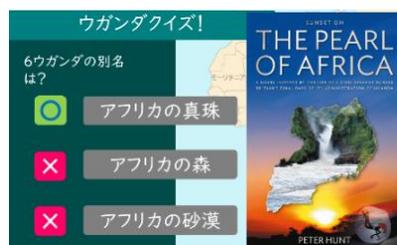
たとえ人種が違っていても、話す言葉が違っていても、住むところが違っていても、「人は人」ということをあらためた感じた研修だった。今回の研修で現地で学んだことや感じたことを、今後も生徒に伝えていきたい。

13. 参考資料

資料名	著者名等	出版元、URL 等
フツの感覚？	大阪府人権学習シリーズ ちがいのとびら 私たちの多様性	https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/30821/42-43.pdf
2023 年度 JICA 筑波ラオス教師海外研修国際理解教育授業実践報告書		独立行政法人国際協力機構筑波センター (JICA 筑波)
フォトランゲージ	開発教育協会	https://www.dear.or.jp/activity/1730/

14. 本時で使用した資料

【資料1】授業で使用したスライド(一部)



【資料2】使用したワークシート (下・右)

共通点	違い

日本とウガンダ

Class. No. Name _____

Target 日本とウガンダの違いと課題を知り、課題について自分たちは何ができるか。

Q1 日本とウガンダの共通点や違いとは? 別紙

Q2 それぞれの国の課題とは? 別紙

Q3 自分たちができることは何だろう?

日本	ウガンダ

感想・振り返り